

平成29年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成30年 3月 9日

札幌市立宮の森中学校

1 本年度の重点目標

学校教育目標の具現化に迫る教育課程の編成と実施及び全員参画による意欲と活力に満ちた学校経営の推進を基盤に、学習指導、生徒指導、生徒活動、進路指導、家庭・地域等との連携、会計・事務の6項目において重点目標を設定した。

2 本年度の経営方針

- ・生徒一人一人の個性や人格を尊重し、豊かな心情を育むとともに、集団とのかかわりの中で自立と共生という自己の生き方を主体的に考えていく教育の推進。
- ・確かな知性（知）・豊かな人間性（徳）・逞しい体（体）のバランスのとれた全人格的な教育の推進。
- ・教職員相互の信頼と協力の中で、組織的で連携を十分に図った指導・支援体制の充実。
- ・教職員の実践的な指導力向上を目指した研修を大切にするとともに、豊かな心情を育むことを根幹とした教育活動の充実と深化。
- ・地域・社会に開かれた学校として、学校・家庭・地域の相互理解を深め、信頼と協力に基づいた教育活動の推進。
- ・生徒・教職員が協働し、組織的な連携、細かな見取りを基盤に安全・安心で潤いのある生活環境づくりと魅力ある学校生活の創造。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育活動全般	教育目標や経営方針・重点の内容を踏まえた教育活動を行っているか。	A	アンケートから、多くの生徒は行事に楽しく参加しており、学校へ来ることも楽しみにしている。今後も重点目標を重視した学校経営を進めていく。	A	A
	本校のホームページや学校だよりは学校の情報を適切に伝えているか。	A	地域・社会に開かれた学校を目指し、学校だよりやHPなどの更なる充実に努め、学校の様子を適切に伝えられるように発信していく。	A	A
	保護者・地域等に開かれた学校になっているか。	A	様々な行事などにおいて、保護者・地域との連携を図っているが、今後もより多くの方々の理解と協力を得られるように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に地域への配慮を頂いていると思う。 ・学校だよりなどを用いて、HPの内容をアピールするとよりよい。 			
教科指導	生徒にとってわかりやすい授業作りを進めているか。	A	「学ぶ力」の育成プランを核として、学習課題を明確、ユニット活動等の協同的な学びを活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、より「分かる」「できる」「楽しい」授業が展開できるように今後も実践を積み上げていく。	A	A

(様式2)

	評価について生徒や保護者に十分に説明がなされているか。	A	理解は得られているが、教師の自己評価が下がっており、次年度の課題の一つと考える。生徒自身が主体的な目標設定と継続的な努力につながるような評価を行うように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・生徒、保護者アンケートの結果や進路の状況からも充分評価できると考える。			
道徳・特活・総合	学校は道徳の指導に力を入れ豊かな人間性を育てているか。	A	道徳の教科化を見据えて、教科指導も含め、教育活動全体の中で取り組み、ユニット活動等の協同的な学びを活用やコミュニケーション力の育成にも力を入れ、更に豊かな心情を育むよう努める。	A	A
	総合的な学習の時間の学習内容や構成は適切であるか	A	キャリア教育を核として、生徒は豊かで様々な経験を通して自分の将来について考えている。今後も更に充実した活動ができるように努める。	A	A
	学級活動や委員会活動など生徒による自治的な活動は活発に行われているか。	A	生徒会を中心に「ひまわりプロジェクト」や「あいさつ運動」など多くの生徒が熱心に取り組んでおり、今後もいじめの防止、命を大切にする指導など、より活発に取り組めるように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・道徳や総合を通して様々な取組をこれからも続けていってほしい。			
生活指導	生徒に基本的な生活習慣や規範意識が身に付くよう指導しているか。	A	「あいさつ運動」など生徒の自治的な活動を通して、基本的な生活習慣の定着や規範意識を高め集団生活の向上を目指す指導を今後も進める。	A	A
	学校では生徒の悩みや相談に適切に対応しているか。	A	教育相談やスクールカウンセラーなど関係機関との連携を通じた効果的な相談活動と諸検査の活用などを通じ、生徒一人一人の理解を更に深め、より適切な対応が図れるように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の顔見知りへのあいさつに留まることなく広げていってほしい。 ・今後もスマホなどの危険性と安全対策についての啓蒙をしていくとよい。 			